

2019 女性のための医療特集 頼れるドクターの先進治療 眼科治療編 ●永久保存版



医療法人恭青会  
いくの眼科  
理事長 生野 恭司

1990年大阪大学医学部卒業。国立大阪病院(現・国立病院機構大阪医療センター)、米国ハーバード大学 Schepens 眼研究所、大阪大学医学部眼科(講師)、金沢大学医学部眼科(非常勤講師/兼任)等を経て、2015年いくの眼科開設。■日本眼科学会眼科専門医、日本近視学会副理事長、大阪大学招へい教授(兼任)、金沢大学臨床教授(兼任)。



あさいアイクリニック  
あさい ともこ  
院長 浅井 智子

大阪市立大学医学部卒業。大阪大学大学院医学系研究科修了。大阪市立大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、大阪府立急性期総合医療センター、大阪大学眼科を経てあさいアイクリニック院長に就任。■日本眼科学会眼科専門医

「最近若年層近視が増えています。低学年からメガネをかけている児童がいますが、簡単に矯正できるからといって近視は軽視できない病気で、わが国の失明原因の第3位です。強度近視に一旦なつてし

いくの眼科  
<https://ikuno-eye.com/>

診療◆午前9時-12時(月~土) 午後2時-5時半  
(火曜午後、木曜午後は『手術』もを行います)※午後の診察で予約がない方は17時15分に受付を終了します  
休診日◆水・土の午後、日・祝  
所在地◆大阪市淀川区十三東2丁目9-10  
十三駅前医療ビル3階  
アクセス◆阪急「十三」駅東出口すぐ(徒歩30秒)、  
大阪市バス「十三駅東口」バス停下車徒歩3分  
電話◆06-6309-4930

あさいアイクリニック  
<https://asai-eye.com/>

診療◆午前9時半-12時半 午後3時半-6時半  
休診日◆水、木・土の午後、日・祝  
所在地◆兵庫県尼崎市南武庫之荘1-19-26  
サークルFビル3階  
アクセス◆阪急神戸線「武庫之荘」駅徒歩1分  
電話◆06-6423-8871

いくの眼科

(※) 手術実績 2017年=1,013件、2018年=1,078件。詳細はホームページ参照。 <https://ikuno-eye.com/surgery/#surgery02>

〈読者の声〉真子さまと小室さん、私たちはこう考える

# 婦人公論

Fujinkoron

N°1526 2019  
10/8

●未発表インタビュー「樹木希林、夫婦を語る」  
●破天荒な両親から独り立ちするとき  
内田也哉子

## 〈特集〉 「老後資金2000万円不足」は大間違い 年金不安に 負けない 生活見直し術

ひとりの時間を楽しむ  
五木寛之×鳳蘭  
関ジャニ∞  
祝15周年!コンサート  
紅ゆずる  
宝塚退団公演、涙と笑顔と  
〈ルポ〉  
普通の男性が痴漢になる理由  
令和の皇室、  
女性たちの  
これから  
〈座談会〉  
香山リカ×辛酸なめ子×山下晋司  
〈家計簿ルポ〉  
月12万円で楽しく暮らす  
〈タイプ別に試算〉  
おトクな年金の  
受け取り方は?  
「死ぬときはゼロ」が理想です  
綾小路さみまる  
表紙・内田也哉子

大阪・十三・兵庫・武庫之荘 ●目の健康から全身の健康を考える、新時代の眼科治療を目指す

最先端の医療設備と高度な技術、豊富な経験により、地域医療に貢献

大阪大学病院で25年以上培った豊富な経験と高度な技術により白内障、緑内障、難易度の高い糖尿病網膜症を含めた網膜硝子体手術を日帰りで提供する、大阪十三駅前の「いくの眼科」の院長 生野 恭司先生と分院にあたる、阪急神戸線武庫之荘駅前の「あさいアイクリニック」の院長 浅井 智子先生に最新の眼科治療について、伺った。

なぜ日帰り手術に  
力を入れているのですか?

「二人でも多くの患者さんに視力を取り戻す機会を逃してほしくないのです。許す限り日帰りの手術で対応しています。最近はこの高齢の方が増え、人工透析を受けてらる方や認知症にかかっている方、入院を要する疾患など、必要などときに必要な手術」が受けられることを前提に白内障、緑内障、網膜硝子体、眼瞼関連などすべてに日帰り手術で対応しています」と生野医師。

総手術件数では1千件(※)を超えたと  
いう同院。そのほとんどの手術を、大学  
病院なみの最先端の機器を駆使し、ハイ  
レベルの手術を生野医師1人で行っている。

網膜硝子体の手術は年間200件以上、  
総手術件数では1千件(※)を超えたと  
いう同院。そのほとんどの手術を、大学  
病院なみの最先端の機器を駆使し、ハイ  
レベルの手術を生野医師1人で行っている。

上皇后様が受けられた  
白内障の手術や眼瞼下垂も日帰りで

「あさいアイクリニック」の浅井智子院長は、大阪大学病院での強度近視や網膜疾患全般において、生野院長の元、研究を通じて得た知識と経験から女性ならではの繊細な手技で、難易度の高い手術を日

強度近視は、失明の原因と言われ  
小児期が近視抑制の鍵に

同院の日帰り手術に並ぶ大きな柱となつているのが近視の診療である。近視の症例数が日本を含むアジア圏は、特に多いこともあり、大学病院時代から網膜疾患、強度近視の治療・研究を発表してきた生野医師は、現在日本近視学会の副理事長であり、国内外で多数の講演活動もおこなっており、そのスペシャリストとして幅広く活躍されている。

「最近若年層近視が増えています。低学年からメガネをかけている児童がいますが、簡単に矯正できるからといって近視は軽視できない病気で、わが国の失明原因の第3位です。強度近視に一旦なつてし

まうとコンタクトや眼鏡などを常時装着する必要があるなど面倒になってしまっただけではありません。さらに病的近視にまで進むと、網膜剥離、緑内障、近視性黄斑円孔、脈絡膜新生血管、萎縮などにより視力が著しく損失され失明の原因ともなりますが、若い時は自覚症状がほとんどなく診断が難しいのが厄介です。視力を維持できる可能性はできたものの、近視が良くなることはないの、「小児期における近視の抑制」が今後のカギとなつています。その近視抑制の効果が証明されているものに、オルソケラトロジー(自由診療)と、低濃度アトロピン点眼があり、当院ではこれらを用いて積極的に低年齢層の近視抑制に取り組んでいます」と生野医師。

一日でも早い社会復帰を目指す患者さんに寄り添った診療を続ける両院。そのホスピタリティー豊かな対応には、患者さんだけでなく、そのご家族の信頼も厚い。